

福岡県おくすり適正使用促進事業に係る啓発資材作成・利活用促進等
成果報告書

1 目的

- ・服用医薬品の多い患者の行動変容に影響を与え、減薬等の薬物療法の適正化に繋げるため、お薬手帳に記載されている医薬品の薬効群毎の薬剤数等を視覚化する患者説明用の頒布版おくすり見える化シートを作成する。
 - ・作成したおくすり見える化シートの活用事例及びその他薬物療法の適正化に繋がる優良な取組の収集、周知及び課題検討を行う。
- 以上により、今後の県事業推進のための施策検討を行うことを目的とする。

2 概要

(1) 業務の概要

令和5年度の福岡県おくすり適正使用促進事業に係る啓発資材作成・検証等業務（以下、「令和5年度事業」という。）及び令和6年度の福岡県おくすり適正使用促進事業に係る啓発資材作成・検証等業務（以下、「令和6年度事業」という。）からおくすり見える化シートの改善点を収集し、頒布版のおくすり見える化シートを作成・配布し、福岡県内の会員薬局における頒布版おくすり見える化シートの活用を促す。

参加した薬局に対してアンケートを実施し、頒布版おくすり見える化シートを活用した服薬指導等の事例及びその他の優良な事例等を収集する。また、県外で行われた全国を対象に、薬物療法の適正化に繋がる優良な取組を収集する。参加した薬局における好事例等及び県外全国の優良な取組をとりまとめ、会員薬局向けに公表する。

(2) 実施期間

令和7年11月17日（月）から令和8年2月20日（金）

(3) 実施報告

令和8年2月20日（金）までに報告フォームにて回答

(4) 実施薬局

福岡県薬剤師会 全会員薬局

(5) 実施対象者

定期的に来局する 65歳以上、定期内服薬を6剤以上服薬し、上記実施期間中に再来局予定の患者

(6) 関係資料

- ・巻末資料1：実施要項
- ・巻末資料2：おくすり見える化シート
- ・巻末資料3：患者アンケート・ヒアリングシート
- ・巻末資料4：おくすり見える化シート使用事例&活動フロー

- ・ 巻末資料 5 : 患者説明用啓発資材
- ・ 巻末資料 6 : ホームページ掲載内容

3 実施手順

【対応 1 回目】

- ・ 「患者アンケート」(別添 1) によりアンケートを実施する。
 ※オモテ面が患者アンケート欄(別添 1)、ウラ面が薬剤師ヒアリング欄(別添 1-2)です
- ・ 「見える化シート使用実例」(別添 2) を参考に見える化シートへ記入し、お薬手帳に貼付する。
- ・ 「患者説明用啓発資材」(別添 3) によりポリファーマシーの説明・啓発を行う。
- ・ 患者氏名、服用薬剤数、「おくすり見える化シート」記載内容を「患者ヒアリングシート」(別添 1-2) に控える。

【対応 2 回目】

- ・ 「患者ヒアリングシート」(別添 1-2) により対応 2 回目の聞き取りを行う。
- ・ 減薬に向けた検討を希望するかどうかを確認する。

<減薬希望ありの場合>

薬剤師として減薬が可能かどうかを判断する。

(減薬の検討が可能の場合)

服薬状況や副作用の発現の有無、減薬の希望等、追加のヒアリングを行い、医師に情報提供するとともに、減薬に向けて医師と検討する。

(減薬の検討が不可の場合)

医師に患者より減量希望があった旨の情報提供のみ行う。

<減薬希望なし>

終了

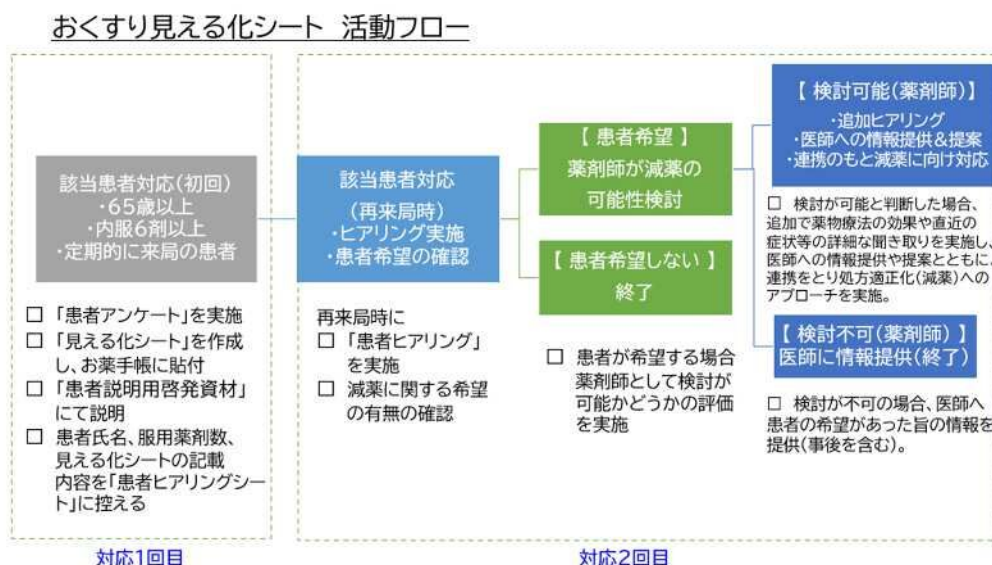


図 1. 活動フロー

4 結果

本事業の集計結果概要、アンケート結果、減薬検討結果、ならびに減薬や服薬改善につながった事例について以下に示す。

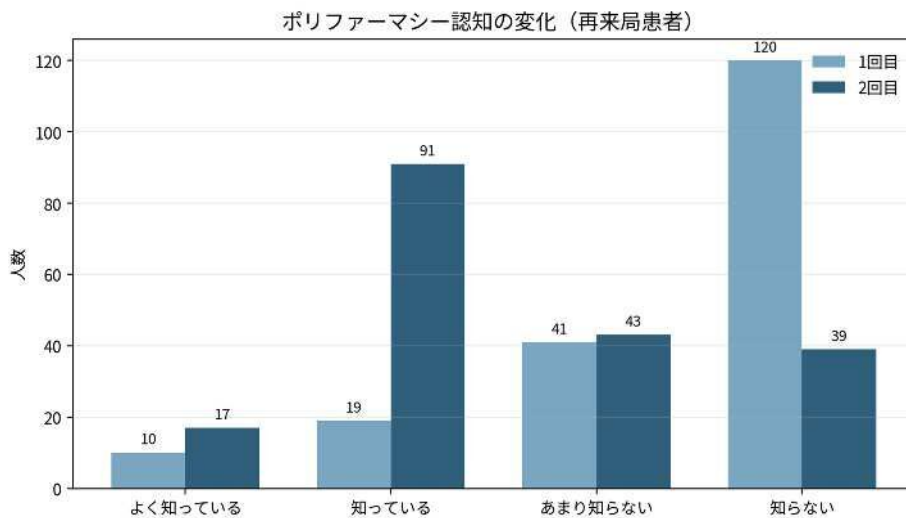
4-1 集計結果の概要

回答薬局数は104薬局であった。実施患者数は206名で、内訳は女性116名、男性90名であった。年齢層は70代が93名(45%)と最も多く、次いで80代77名(37%)、60代27名(13%)、90代8名(4%)、50代1名(1%)であった。介入前服用薬剤数は平均9.2剤(範囲3~27剤)であり、多剤服用状態にある高齢患者が中心であった。

項目	内容	項目	内容
回答薬局数	104 薬局	実施患者数	206 名
性別	女性 116 名 男性 90 名	平均服用薬剤数	9.2 剤 (範囲 3~27 剤)
年齢層	70 代 93 名、80 代 77 名、60 代 27 名、90 代 8 名、50 代 1 名	有効回答数 (2 回目)	195 件

4-2 アンケート結果

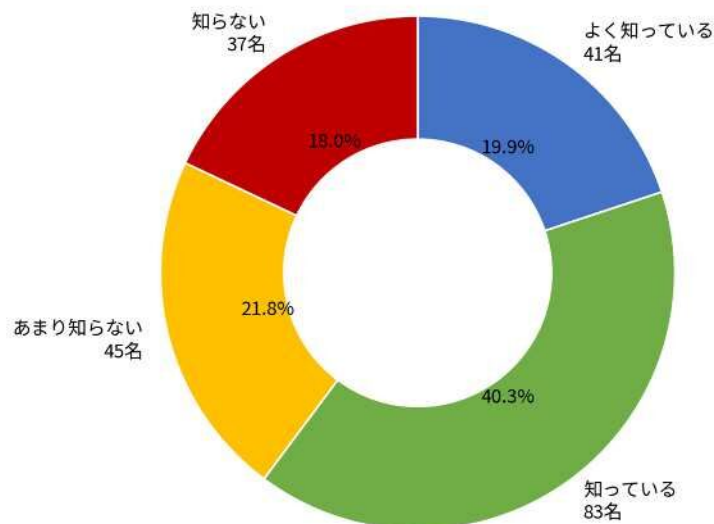
再来局した患者に限定して1回目と2回目の「ポリファーマシー認知」を比較したところ、1回目は「よく知っている」10名、「知っている」19名、「あまり知らない」41名、「知らない」120名であったのに対し、2回目は「よく知っている」17名、「知っている」91名、「あまり知らない」43名、「知らない」39名であった。すなわち、「知っている」以上の回答は1回目29名(15.3%)から2回目108名(56.8%)へ増加しており、見える化シートおよび啓発資材の活用により、患者の認知向上が認められた。



「薬の種類を減らすことについて医師・薬剤師に相談できると知っているか」については、「よく知っている」41名(19.9%)、「知っている」83名(40.3%)であり、「知っている」以上の回答は計124名(60.2%)であった。一方で、「あまり知らない」45名(21.8%)、

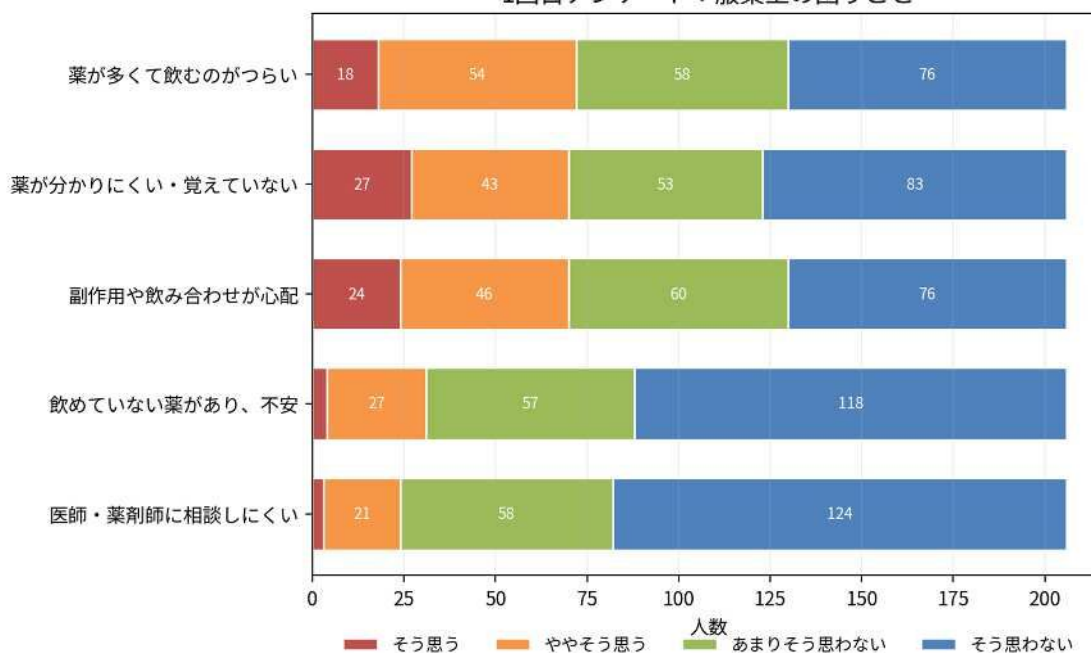
「知らない」37名（18.0%）も認められ、減薬相談の選択肢を十分に認識していない患者が約4割存在した。

「減薬を医師・薬剤師に相談できる」と知っているか



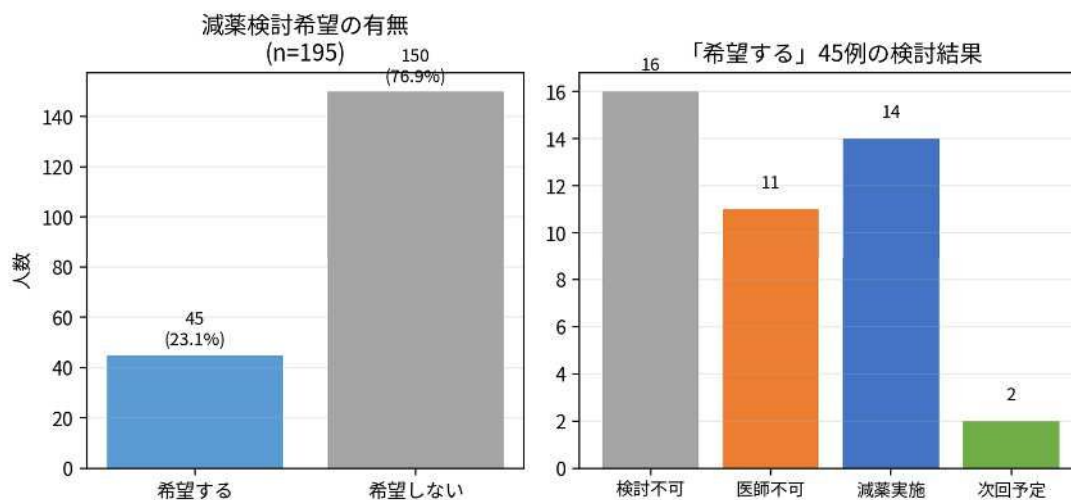
1回目アンケートにおける服薬上の困りごとでは、「薬が多くて飲むのがつらい」72名（34.9%）、「薬が分かりにくい・覚えていない」70名（34.0%）、「副作用や飲み合わせが心配」70名（34.0%）が一定割合で認められた。一方、「飲めていない薬があり、不安」は31名（15.0%）、「医師・薬剤師に相談しにくい」は24名（11.7%）であり、患者の多くは相談自体には心理的障壁が比較的少ないものの、薬剤数や薬効理解、副作用への不安を抱えていることが示された。

1回目アンケート：服薬上の困りごと



4-3 減薬検討結果

2 回目ヒアリングの有効回答は 195 件であった。減薬希望の有無は、「希望する」45 件 (23.1%)、「希望しない」150 件 (76.9%) であった。減薬希望者 45 例について薬剤師が薬学的に検討した結果、「薬剤師として検討不可」が 16 件、「薬剤師として検討可能と判断したが医師が不可と判断」が 11 件、「減薬実施」が 14 件、「次回来局時に減薬する方向」が 2 件であった。減薬が実施された症例における減薬数は平均 1.5 剤 (範囲 0~5 剤) であり、患者の行動変容が一定割合で実際の処方見直しに結び付いた。



項目	件数	割合等
2 回目ヒアリング有効回答	195 件	-
減薬希望あり	45 件	23.1%
減薬希望なし	150 件	76.9%
薬剤師として検討不可	16 件	希望あり 45 件中 35.6%
薬剤師として検討可能だが 医師不可	11 件	希望あり 45 件中 24.4%
減薬実施	14 件	希望あり 45 件中 31.1%
次回来局時に減薬予定	2 件	希望あり 45 件中 4.4%
実施した減薬数	平均 1.5 剤	範囲 0~5 剤

4-4 減薬や服薬改善につながった主な事例

自由記載には、見える化シートやヒアリングを契機として減薬または服薬改善につながった具体例が 15 例集積された。主な内容は、①同効薬・重複投与の整理、②漫然投与や適応消失薬の中止、③服用回数や剤形の見直しによるアドヒアランス改善、④副作用や生活背景を踏まえた処方再評価、の 4 類型に整理できた。

類型	代表事例	得られた示唆
同効薬・重複投与の整理	排尿障害改善薬の重複を整理し、内科医の了解のもと 1 剤中止。見える化シートにより同効薬であることを患	患者・薬剤師・医師が同じ情報を共有することで、重複投与の是正が進みやすい。

	者自身が認識した事例もみられた。	
漫然投与・適応消失薬の中止	整腸剤、消化管運動改善薬、睡眠薬、頓用鎮痛薬などについて、症状消失や処方理由の再確認を通じて中止・減量につながった。	長期継続薬でも症状や目的を再確認することで減薬候補が見出される。
副作用・身体負担を踏まえた再評価	前医から継続されていた複数薬剤について、現病態との不整合や副作用疑いを整理して情報提供し、5剤の中止と代替薬への変更につながった。	薬剤師・薬局による薬学的評価は、処方全体の再構成に寄与し得る。
服用回数・剤形の見直し	1日4回服用で半数程度しか服用できていなかった症例に対し、朝1回への変更、不要薬中止、粉碎対応を組み合わせ、飲み忘れ・服用拒否が改善した。	減薬のみならず、服用方法の最適化自体が服薬改善に直結する。
生活背景を踏まえた調整	食事内容・生活パターン・水に溶かしにくさ等を把握したうえで医師へ提案し、便秘薬・利尿薬等の中止や減量につながった。	生活機能や介護状況を踏まえた提案が高齢者では重要である。

また、薬局独自の取組として、在宅訪問時の残薬確認、多職種への情報提供、マイナ保険証やお薬手帳を活用した併用薬確認、一包化や服用時点の調整等が報告された。これらは、単なる薬剤数の削減にとどまらず、服薬負担の軽減、患者理解の向上、医師への相談行動の促進につながる実践として位置付けられる。

5 考察

本事業では、おくすり見える化シートおよび患者説明用啓発資材（以下「患者向け資材」という）を活用した患者介入により、ポリファーマシーリテラシーの向上と、減薬に向けた行動変容が確認された。特に再来局患者において、「ポリファーマシーを知っている」以上の回答が1回目15.3%から2回目56.8%へ増加しており、患者向け資材としての理解促進に一定の効果があったことを示す所見と考えられる。

また、2回目ヒアリングでは23.1%の患者が減薬の検討を希望しており、実際に14例で減薬が実施され、さらに2例で次回来局時に減薬予定となった。すなわち、おくすり見える化シートの活用は、患者が自ら薬物療法を見直す意向を持つきっかけとなり、一定割合で処方の具体的見直しにまで至ったと考えられる。

一方で、減薬希望があっても「薬剤師として検討不可」または「医師が不可と判断」となった症例が27例認められた。高齢者の多剤併用は、併存疾患、フレイル、生活背景、処方継続の経緯など複数要因が背景にあり、単純な薬剤数の問題ではない。したがって、減薬の是非は一律に判断できるものではなく、薬学的妥当性と患者個別性の双方を踏まえた評価が必要である。

自由記載の事例からは、減薬成功の契機として、①重複・同効薬の可視化②漫然投与や適応消失薬の再評価③服用回数や剤形の見直し④生活背景・副作用への着目が抽出された。これらは、薬剤師・薬局が薬学的管理の枠組みの中で、患者の生活実態に即した処方適正化を支援できることを示している。とりわけ、薬剤数を減らせなかった場合であっても、服用時点の集約や一包化、粉碎対応等による服薬改善が得られており、本事業の意義は「減薬件数」だけでは評価し切れない。

他県事例として、埼玉県薬剤師会においても、患者向け啓発資料の活用や地域薬局からの実践報告を通じて、ポリファーマシー対策の普及啓発と事例共有が進められている。本事業で得られた結果も、患者理解の促進、相談行動の惹起、薬剤師から医師への情報提供の重要性という点でこれらの取組と整合しており、県域事業として継続的に展開する妥当性を支持するものと考えられる。

なお、見える化シートについては、自由記載でも指摘されたように、薬効分類の拡充等の意見が挙げられた。

薬剤師・薬局が地域におけるポリファーマシー対策の実践主体として機能するためには、患者啓発、薬学的評価、多職種連携を一体的に推進する必要がある。

**福岡県おくすり適正使用促進事業
(おくすり見える化シートの活用)
実施要領**

1 事業目的

服用医薬品の多い患者の行動変容に影響を与え、減薬等の薬物療法の適正化に繋げるため、お薬手帳に記載されている医薬品の薬効群毎の薬剤数等を視覚化する患者説明用の頒布版おくすり見える化シートを作成し、作成したおくすり見える化シートの活用事例及びその他薬物療法の適正化に繋がる優良な取組の収集、周知及び課題検討を行う。

2 事業概要

(1) 実施期間

令和 7 年 11 月 17 日 (月) から令和 8 年 2 月 20 日 (金)

(2) 実施報告

令和 8 年 2 月 20 日 (金) までに報告フォームにて回答

(3) 実施薬局

福岡県薬剤師会 全会員薬局

(4) 実施対象者

定期的に来局する 65 歳以上、定期内服薬を 6 剤以上服薬し、上記実施期間中に再来局予定の患者

(5) 実施内容

「おくすり見える化シート」に記入し、ポリファーマシーに対する啓発活動を行う。患者が服用する医薬品の薬効や薬剤数を視覚化することで、患者に減薬に向けての行動変容が起きたか、また実際に減薬できたかを調査する。

3 実施手順

【対応 1 回目】

- ・「患者アンケート」(別添 1) によりアンケートを実施する。
※オモテ面が患者アンケート欄 (別添 1)、ウラ面が薬剤師ヒアリング欄 (別添 1-2) です
- ・「見える化シート使用実例」(別添 2) を参考に見える化シートへ記入し、お薬手帳に貼付する。
- ・「患者説明用啓発資材」(別添 3) によりポリファーマシーの説明・啓発を行う。
- ・患者氏名、服用薬剤数、「おくすり見える化シート」記載内容を「患者ヒアリングシート」(別添 1-2) に控える。

【対応2回目】

- ・「患者ヒアリングシート」(別添1-2)により対応2回目の聞き取りを行う。
- ・減薬に向けた検討を希望するかどうかを確認する。

<減薬希望ありの場合>

薬剤師として減薬が可能かどうかを判断する。

(減薬の検討が可能の場合)

服薬状況や副作用の発現の有無、減薬の希望等、追加のヒアリングを行い、医師に情報提供するとともに、減薬に向けて医師と検討する。

(減薬の検討が不可の場合)

医師に患者より減量希望があった旨の情報提供のみ行う。

<減薬希望なし>

終了

4 実施報告

令和8年2月20日(金)までに実施した患者アンケート・ヒアリングシートの内容を報告フォームにて回答する。

※本啓発資材をご活用いただけた薬局は、ぜひ減薬や服薬改善などポリファーマシーが解消した事例や、患者からのご意見等ご回答をお願いいたします。

報告フォーム (回答期間：令和7年11月17日～令和8年2月20日)

※随時回答いただけます



5 関係資料

○別紙①：実施要領(本資料)

○別紙②：おくすり見える化シート(シール4枚)

○別添1：患者アンケート・ヒアリングシート(1枚)

○別添2：おくすり見える化シート使用実例&活動フロー(1枚)

○別添3：患者説明用啓発資材(1枚)

※各資材は必要に応じてコピー等をしてご使用ください。下記本会ホームページの会員ページよりダウンロードも可能です。

福岡県薬剤師会ホーム>会員(薬剤師)向け>医療保険委員会

https://www.fpa.or.jp/member/iryuhoken-i/_5205.html

7 問い合わせ

公益社団法人福岡県薬剤師会(事務局：正)

福岡市博多区住吉2丁目20番15号

TEL：092-271-3791

E-mail：sho-k@fpa.or.jp

巻末資料 2 : おくすり見える化シート

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

おくすり 見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
・お薬は正しく服用しましょう

全部で 種類服用

	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓					
消化器用剤 (胃腸薬・便秘・下痢等)					
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)					
寝つき・不安					

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく
医師・薬剤師にご相談ください
公益社団法人福岡県薬剤師会

◇患者アンケート

アンケートにご協力をお願いいたします。ご記入いただいた情報は、「福岡県おくすり適正使用促進事業」の目的に沿って集計・分析し、個人が特定される形で公表することはありません。
太枠内にご記入または☑を入れてください。

患者様ご自身で記入ください	記入日：令和 年 月 日	0-1. 年齢()歳	0-2. 性別 <input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女		
	ポリファーマシーについて	よく知っている	知っている	あまり知らない	知らない
	1-1. ポリファーマシーを知っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	1-2. 薬の種類を減らすことについて医師・薬剤師に相談できると知っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	現在のおくすりについて	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
	2-1. 薬が多くて飲むのがつらい。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2-2. 薬が分かりにくい・覚えていない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2-3. 副作用や飲み合わせが心配。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2-4. 飲めていない薬があり、不安。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2-5. 医師・薬剤師に相談しにくい。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【 薬剤師記入欄 】

◇患者ヒアリングシート（患者 No. _____）

【対応1回目】

- 患者氏名(_____)
 ■3. 服用薬剤数:(_____)剤 ※内服薬のみ

【対応2回目】 ※薬剤師が聞き取りの上、記載してください。

- 4. ヒアリング実施日:令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

- 5. ポリファーマシーを知っていますか。

よく知っている 少し知っている あまり知らない 知らない

- 6. 【確認】 減薬の検討を希望しますか。

希望する ・ 希望しな

※希望された場合は、詳細な聞き取りや処方検討等の上、医師との情報提供・提案・連携し、処方適正化に向けたアプローチをお願いいたします。

- 7. 【結果】 上記「6. 【確認】」で「希望する」を選択された場合

7-1. 検討結果

- ①薬剤師として検討不可と判断
 ②薬剤師として検討可能と判断したが、医師が不可と判断
 ③薬剤師として検討可能と判断し、医師も可能と判断し減薬実施

- 7-2. 減薬できた薬剤数 (_____)剤

- 7-3. 本啓発資材を活用し実施した服薬指導等により、減薬や服薬改善につながった事例について可能な範囲で具体的にご記入ください。
 (例:どのような薬が整理されたか、副作用や残薬の変化、患者のご意見 など)

[_____]

- 8. 【全体調査】貴薬局独自の取組や対応によりポリファーマシー解消につながった事例や本事業の改善点などがあればご記入ください。

[_____]

おくすり見える化シート 記載内容メモ欄

血圧・心臓・……	種類
消化器用剤・……	種類
痛み・……	種類
生活習慣病・……	種類
寝つき・不安・……	種類

※必要部数を各薬局でコピーしてご活用ください

おくすり見える化シート 使用事例

おくすり見える化シートとは
 …服用している薬の薬効分類やその数をグラフ化し、患者にわかりやすくし、薬物治療の全体像を理解してもらうためのツール

お薬手帳のページ内に貼る
 処方の変更になった際には、新しく記入したシールを貼る

おくすり見える化シート

・あなたの服用しているお薬の種類です
 ・お薬は正しく服用しましょう

全部で **8種類** 服用

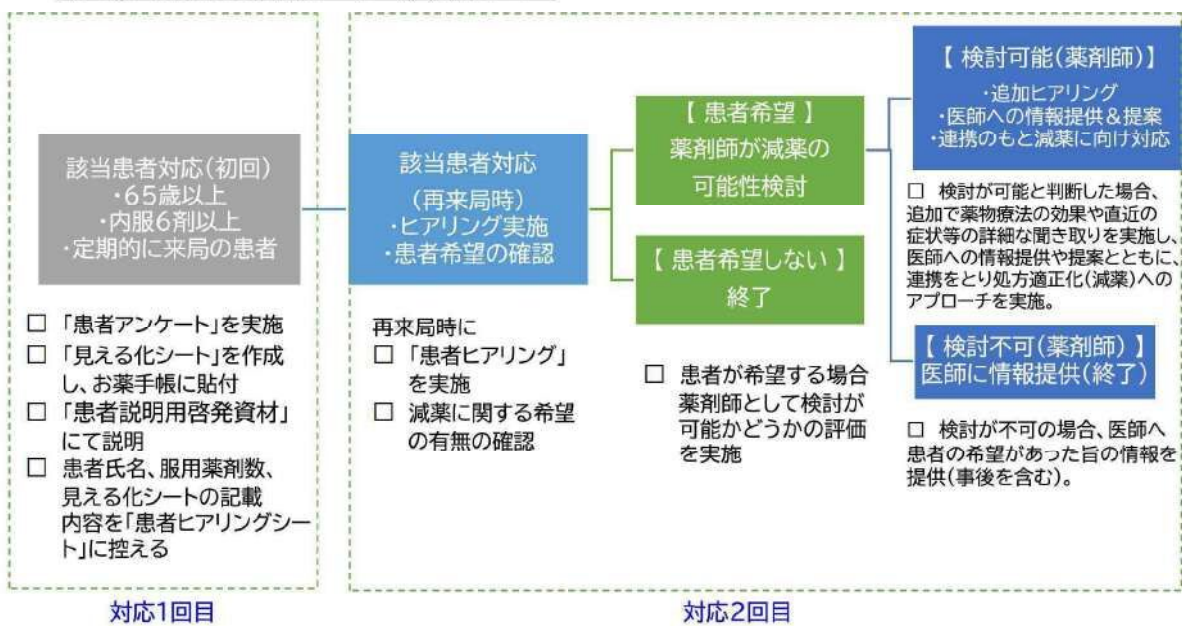
	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上
血圧・心臓	■	■			
消化器用剤 (胃腸薬、便秘・下痢等)	■	■	■		
痛み					
生活習慣病 (循環器系以外)	■				
寝つき・不安	■	■			

服用しているお薬の相談（お薬が余った・効果・副作用・種類など）は、ご遠慮なく医師・薬剤師にご相談ください
 公益社団法人福岡県薬剤師会

【記入例】

- ①アムロジピン
- ②サクビトリルバルサルタン
- ③アトルバスタチン
- ④酸化マグネシウム
- ⑤センノシド
- ⑥大黄甘草湯
- ⑦メイラックス
- ⑧マイスリー

おくすり見える化シート 活動フロー



・患者の希望を最優先してください。(強制はしない)
 ・各資材(見える化シート、患者アンケート、ヒアリングシート、患者説明用啓発資材)は必要に応じてコピー等をしてご使用ください。本会HPの会員ページよりダウンロードも可能です。

お薬が多くて 困っていませんか？

ポリファーマシーって？

薬剤師に聞いてみよう



薬が多くて飲むのがつらいし
何の薬か分からない



いろんな病院にかかっている
副作用や飲み合わせが心配



飲めていない薬があるけど
医師・薬剤師に伝えていない

1つでも
チェックがついた方は
裏面をご覧ください

福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会
福岡県保健医療介護部薬務課
公益社団法人 福岡県薬剤師会



🩺 ポリファーマシーって？

複数の薬を一緒に飲むことで何かしらの問題を引き起こしている状態をいいます。



🩺 どんな問題があるの？

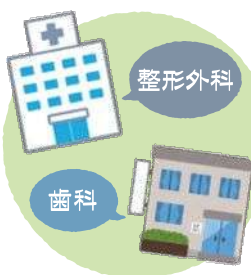
薬が多くて飲むのがつらいし
何の薬か分からない

これは
何の薬だった
かしら



こんなに
たくさん飲めない
もつと薬の量が
減ったらしいな…

いろんな病院にかかっていて
副作用や飲み合わせが心配



痛み止めが
2つあるけど
一緒に飲んで
いいのかな？

飲めていない薬があるけど
医師・薬剤師に伝えて
いない



はい
わかりました

お薬が効いて
ないようなので
増やしましょう

🩺 どうしたら解決できるの？

- ◎ **お薬手帳を1冊にまとめて**、医師・薬剤師にしっかり確認してもらいましょう。
- ◎ 処方された薬で飲めていない、飲みづらいなどお困りのことがある場合は医師・薬剤師にいつでも相談してください。
- ◎ **かかりつけ薬剤師を活用**しましょう。



会員（薬剤師）向け

定款・規則等
新型コロナウイルス感染症関係
会員向け文書
医療保険委員会
薬局ビジョン委員会
薬局機能推進委員会
広報委員会
生涯学習委員会
薬学教育委員会
環境衛生・学校薬剤師委員会
DI委員会
総務委員会
災害・感染対策委員会
学術委員会
薬剤師向け研修会開催一覧

福岡県おくすり適正使用促進事業

福岡県では、高齢者等のポリファーマシー対策に取り組んでおり、その対策の一環として、本会に「福岡県おくすり適正使用促進事業に係るおくすり見える化シート作成・利活用促進等」業務が委託されました。

本事業は、令和5年度より福岡県内約80薬局で実施し、令和6年度の調査研究では「おくすり見える化シート」の活用により、患者の自発的な減薬希望率が有意に向上し、減薬につながった事例が報告されるなど、その有用性が確認されました。

こうした成果を踏まえ、今年度も本事業を実施し、本啓発資材を全会員薬局へ配布させていただきます。つきましては、実施要領等をご確認のうえ、日常業務の中で積極的にご活用くださいますようお願い申し上げます。

会員薬局におかれましては、ぜひ本啓発資材を活用し、減薬や服薬状況の改善につながった事例、患者から寄せられたご意見、ならびに本事業の改善に関するご提案等についてご回答をお願いいたします。

実施結果につきましては、ポリファーマシー解消につながった好事例を収集し、今後のポリファーマシー対策における施策検討やエビデンスとして報告させていただくとともに、事業報告書として県内関係機関と共有する予定です。

何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

各種関係資料のダウンロードはこちら

- 別紙①：実施要領
- 別紙②：おくすり見える化シート
- 別添1：患者アンケート・ヒアリングシート
- 別添2：おくすり見える化シート使用実例&活動フロー
- 別添3：患者説明用啓発資材

※各資材は必要に応じてコピー等をしてご使用ください。

実施期間

令和7年11月17日（月）から令和8年2月20日（金）

実施報告

令和8年2月20日（金）までに報告フォームにて回答

※本啓発資材をご活用いただけた薬局は、ぜひ減薬や服薬改善などポリファーマシーが解消した事例や、患者からのご意見等ご回答をお願いいたします。

報告フォームはこちら

令和8年2/20(金)まで随時回答いただけます

実施薬局

福岡県薬剤師会 全会員薬局

実施対象者

定期的に来局する65歳以上、定期内服薬を6剤以上服薬し、上記実施期間中に再来局予定の患者

実施内容

「おくすり見える化シート」に記入し、ポリファーマシーに対する啓発活動を行う。患者が服用する医薬品の薬効や薬剤数を視覚化することで、患者に減薬に向けての行動変容が起きたか、また実際に減薬できたかを調査する。

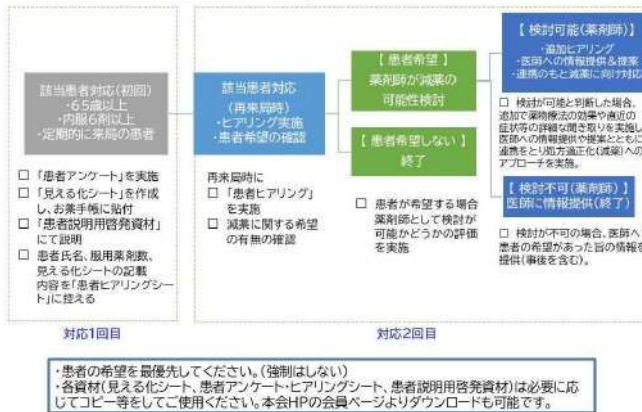
おくすり見える化シート 使用実例

おくすり見える化シートとは

…服用している薬の薬効分類やその数をグラフ化し、患者にわかりやすくし、薬物治療の全体像を理解してもらうためのツール



おくすり見える化シート 活動フロー



医薬品適正使用に関する情報

高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015

https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/publications/other/pharmacotherapy_guideline_2015.html

高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208848.html>

高齢者の医薬品適正使用の指針(各論編(療養環境別))

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05217.html

🏠 ページの先頭に戻る

サイトマップ | お問い合わせ | プライバシーポリシー | SNSアカウント運用ポリシー

公益社団法人 福岡県薬剤師会

〒812-0018 福岡市博多区住吉2丁目20番15号 TEL 092(271)3791 FAX 092(281)4104

Copyright © 2016 Fukuoka Pharmaceutical Association. All rights Reserved.